

令和5年度第2回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会 会議概要(案)

- 日 時 令和6年3月13日(水) 9時59分～12時6分
○会 場 鶴岡市役所 大会議室
○委員出席者 鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員 12名
武田真理子委員長、菅原誠委員、高橋俊一委員、大谷弘子委員、
釘持孝文委員、加藤由貴絵委員、渡邊健委員、田村廣実委員、
市川美穂委員、阿部陽太委員、鈴木貴大委員、遠藤敬委員
○市側出席者 市民部長ほか鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会幹事、事務局 24名
幹事:伊藤慶也市民部長、菅原青地域振興課長、加藤明防災安全課長、
藤澤実環境課長、玉津卓夫廃棄物対策課長、
齋藤芳地域包括ケア推進室長、小池敏明消防本部警防課長、
今野新一学校教育課長、沼沢紀恵社会教育課長
事務局:コミュニティ推進課、庁舎総務企画課職員 15名
○公開・非公開の別 公開
○傍聴者の人数 0人

(9時59分 開会)

1 開 会 (全体進行:コミュニティ推進課長)

2 挨拶 (委員長)

3 報告・意見交換 (座長:委員長)

(1)市のコミュニティ施策、各地域の取組状況について

- | | |
|-------------------------------|---------|
| 市のコミュニティ施策について(令和5年度の取組み) | …資料No.1 |
| 「鶴岡地域まちづくり未来事業」実施状況(令和5年度採択分) | …資料No.2 |
| アドバイザー職員制度(令和5年度の取組み) | …資料No.3 |
| 各地域の取組状況について(令和5年度) | …資料No.4 |
| 「まち活通信」vol.2 | …資料No.5 |
| 「ふり返しシート(令和4年度)」調査報告 概要版 | …資料No.6 |
| 「ふり返しシート(令和4年度)」調査報告 共通指標編 | …資料No.7 |
| 行政施策の取組状況(令和4年度) | …資料No.8 |

(事務局) 資料 No.1 から No.8 までを説明

(A 委員)

資料 P27 デジタル化の推進の部分で、汎用アプリと専用アプリというのは、具体的にどういったものか。

(事務局)

町内会活動に特化した専用アプリがある。専用アプリは使用料も発生するが、今後は、町内会活動をサポートするツールの1つになると考えている。

(B 委員)

ふり返しシートの提出率は、単位自治組織の一番低い地域で52.4%と特別高いわけではない。地域ビジョン策定の必要性を認識していない集落、町内会等もあり、今後どのような対応をしていくのか。

「まち活通信」は大変よいと思うが、どのように配布されているのか。

(事務局)

各組織のビジョン策定の進め方は、自分自身の組織がどうなっていきたいか、どう活性化を図っていくか考えていただくのが第一段だと考えており、市としては、各組織に対して課題を認識していただくための研修会や情報提供をしている。

また、「まち活通信」は、鶴岡地域では単位自治組織に5部送付し、町内会等で回覧・周知に活用いただいている。鶴岡地域以外でも基本的に複数枚配布しており、隣組回覧いただける場合はその枚数を提供するなどしている。

(委員長)

B委員の発言の1点目は、難しいところだと思う。自治体の命で地域運営組織の立ち上げとビジョン策定を必須とし、必要経費は行政で予算化している自治体もあれば、コンサルを活用して計画を策定し、コミュニティ組織の事務局を中心に進めている地域もある。理想は、委員会事務局が回答したように、地域がやりたいと思ったらやるのがよいと思うが、進まないところはそのままでよいのかという悩みもある。

(C委員)

資料P28の自由記述に、「会長専用携帯電話を取り入れた」とあるが、鶴岡地域の市街地か、それ以外の地域か。

(事務局)

鶴岡地域以外のおよそ70世帯くらいの組織の回答であった。

(2)グループ討議

グループ討議について…当日配布資料

(事務局) 進め方を資料により説明

テーマ1「地域コミュニティが果たしている役割」

(委員長)

前回までの委員会で、そもそも地域コミュニティは必要なのかという根本的な問いかけが複数の方からあったので、今日は、地域コミュニティが果たしている役割についていろんな意見を寄せ合い、今後の施策や取組みを考えていきたい。

こんな大事な役割を果たしているとか、コロナのときに大事な役割を果たしたという振り返り、地域の取組みの自慢とか、負担が大きくなっていることなど役割や課題を挙げてほしい。

意見の発散が目的で、それぞれ立場が違う中で、思いつくものを挙げていただきたい。

(個人作業) 各自で付箋に書き出し。

(グループ作業) 個々が書き出した内容の共有 ➡班毎に発表

(A班:D委員)

地域コミュニティの具体的な役割として、一つは夏祭り、伝統行事などのイベント的な取組み、もう一つは、ごみ収集や安全などの生活保全的な取組みがある。これらがかみ合わされ、相互補完されている状態が求められる。

地域コミュニティ活性について感じる課題は、行政が地域に期待する内容と、地域が実際に悩み、必要としている内容がずれている印象がある。

もう一つは、鶴岡地域の第一から第六学区までの市街地とそれ以外に地域の課題はかなり異なるのではないかと。それを整理して、課題を分けて考えていく必要がある。

(B班:E 委員)

守りと攻めという2つの観点から議論した。

守りでは、共助、助け合いが大切であり、例えば、防犯や高齢者の見守りなどがコミュニティの役割として重要であるということについて。

攻めでは、世代間の交流やギャップを埋めるようなイベント開催のほか、地域の方向性はまちの未来を決める大事なことであり、コミュニティの役割が非常に重要であるということについて。

(C班:F 委員)

コミュニティの役割と、行事・イベント・事業、コロナの影響について話し合った。

コロナで集まる機会が減ったことにより、モチベーションが下がってしまった部分もあるが、それを解決していくためには、コミュニティをよくしていくことが重要であることに行きつき、子供たちを巻き込んだ事業をすれば、人が集まるのではないかとということに至った。

(委員長)

皆がコミュニティについて違う認識を持っていることは間違いがなく、共有できたと思う。

現場も同じで、地域の人も皆同じ考えではないので、それを踏まえると、コミュニティを守るために「私たちは何ができるか」という考え方も必要になってくると思う。

また、先ほど挙げていただいたように、会議としては全地域のものとして市全体で開催しているが、それぞれの事情、特性、外部要因など踏まえてやらなければいけないことなども共有できたと思う。

テーマ2 デジタルによる地域コミュニティ活性化

(委員長)

地域コミュニティにおけるデジタルの活用は、時代の流れとしては不可避であると思う。現状や課題、思いつくものを黄色付箋に書き出していただき、その後、解決策を自由に出してほしい。解決策は、各班に入っている職員が水色付箋に記入するやり方で進める。

(個人作業) 各自で付箋に書き出し。

(グループ作業) 個々が書き出した内容の共有 →課題に対する解決策の共有 →班毎に発表

(A班:G 委員)

課題は大きく2つ。1つ目は、広報のイベント周知が小さくて分かりにくい。解決策は、広報に掲載したイベントは、市のホームページなどに分かりやすく掲載していくこと。

2つ目は、地区毎に利用ツールが異なること。LINEでも高齢者にはハードルが高いかもしれないので、解決策としてはツールの共通化が大事であると思う。例えば、コミュニティ同士の連絡はLINE、コミュニティと住民同士の連絡は公式LINE、情報発信はX(旧:ツイッター)やインスタグラム…と共通化を図ればよいのではないかと。

同時に、行政主導でデバイスの保有状況も確認した方がよいし、ツールの習得に関しても、市が研修会を主催したり、市役所の玄関にデジタル相談所を作ったりして、トータル的にサポートするのがいいという意見が出た。

(B班:A 委員)

現状として、デジタル化していないことによる大変さや、した方がよいという意見が多く出された。

例えば、紙の案内や回覧板は、届けるのが大変であったり、タイムラグがあったりするが、LINEであればすぐ届くし、集金も PayPay 送金出来れば簡単である。

とは言え、高齢者への配慮が必要であり、デジタルのコミュニティとそうではないコミュニティを両立させることが大事である。この場合でも、デジタルのメリットは大きいので、スマホ教室の実施などにより使える方の人口を底上げすることも大事である。

デジタル化により、関わり方の濃密さも変わる。会合に行けなくても LINE で返信するなど、忙しい方でも関わり方を選択できるとか、障がいがあり物理的に参加出来なかった方は、デジタルでやるコミュニティに参加しやすくなるなど、多様性に配慮できる効果もあるという意見が出された。

(C班:H委員)

災害時の安否確認なども工夫次第で簡単にできるのではという意見が出た。現在、自治会の情報をフェイスブックで発信している例もあったが、課題としては、高齢者などデジタルを使っていない人への対応をどうするか、また、デジタル化が進むことによって顔を合わせなくなるというコミュニケーション不足も生じるのではないかという課題が出された。

(委員長)

かなり共通した課題や現状と、アイデア、解決策が多く出た。委員の皆様の貴重なご意見、現状、課題意識を含めて、共有していただき、ありがとう。

(3)その他

(D委員)

資料の内容を、抽象的な表現から具体的な表現にしてほしい。例えば「意識の醸成が図られた」「学校と地域の連携により」「着眼点を多角的に共有できた」などの表現では具体的に何があったのか、分からない。もっと分かりやすい資料に改善してほしい。

また「活性化」を目指しているがこれはあくまで手段であり、その先に何が生まれたのかという視点が重要である。例えば「この市に住んでよかった」「ここでこんなに心豊かに暮らしている」というような、目には見えない喜びの探り出しである。

(B委員)

市内には463の自治組織があり、中には限界集落と言われるような集落もあると思う。そういう小規模な地域に対しても、行政はバックアップするのが当然だと思うが、どの程度の数であるか。

(事務局)

第2期地域コミュニティ推進計画のP8に、鶴岡地域から温海地域、それから全域についての世帯規模に応じた組織数が記載してあるので、そちらで確認願う。

(委員長)

今日このような進め方してみて成果もあるが、参加しにくかったとか、時間などいろいろ意見もあると思う。次回以降、毎回このような進め方をするわけではないので、ご意見を私や事務局にもお寄せいただければと思う。

4 閉会
(12時6分 閉会)

(伊藤部長)